KSKR パンジーだより

KSKR　No.73 号　通巻 6237 号
2014 年 1 月 23 日発行

2014年　今年もよろしくお願いします

去年、パンジーはピープルファースト大会の事務局を引き受けました。そしてこの機会に欲張って、パンジーの活動がピープルファーストの理念に沿っているのかを見直すことにしました。その視点から見直すと、気づかないうちに、職員ペースで進めていたことや、結果に職員がこだわっていたことに気づかされました。大会の準備とパンジーの活動の見直しは、あたかも車の両輪のように連動して進みました。

そして迎えたピープルファースト大会には、千二百人の人が集まりました。輝いているたくさんの笑顔を見られたことが、何よりもうれしいことです。また、当事者リーダーたちの活躍を目の当たりにして、「○○さんかっこいい！○○さんのようになりたい！」という声を何度か聞きました。今回は、外国のリーダーの人たちも参加していたので、その思いは一段と強かったようです。その思いが実現に向かうには、私たちには何ができるのでしょうか？新しい年を迎えて、今年の課題としたいと思います。

最後になりましたが、たくさんのアドバイスやご協力、ありがとうございます。そして、今年もよろしくお願いします。

（林淑美）

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

KSKR パンジーだより　No.73　第三種郵便物認可　通巻第 6237 号　2014 年 1 月 23 日発行

大会in大阪

11 月２日、３日、「ピープルファースト大会 in 大阪」は全国から集まった 1200 人の熱気で熱く燃えた二日間となりました。たくさんの出会いと、つながりができました。

ＩＬＰおしゃれ編の分科会に参加。お化粧したよ！

ダンス楽しかった！

実行委員長を務めた中山さん。「無事大会が成功した。みんな楽しんでくれてよかった」

海外ゲストと名刺交換！

みんな笑顔！また行きたい！

広い会場が超満員に！

Hey! Susumu!

仕事で会議に遅れたり、分科会の準備は大変だったけど、上手くできてよかった！

交流できましたよ

来年の大会は、**沖縄！**・・かもしれません。ゆうてしもた！

KSKR パンジーだより　No.73　第三種郵便物認可　通巻第 6237 号　2014 年 1 月 23 日発行

ピープルファースト

元気がでるはなし

毎年恒例の元気がでる話！担当メンバーは、大阪大会ということで俄然やる気がありました。しかし当事者と支援者で気持ちが食い違い、反省することが多かったです。そして本番！８０人もの人が集まり、緊張したメンバー。円陣を組み「なんでもできるー！」と大声を出すと、みんな笑顔になりました。練習で上手くいかなかった最初の全員でのセリフも完璧。協力しあい、励ましあい、自分たちの力で、とても素敵な分科会となりました。「練習の成果が出た」、「自信を持って前を向いて話せた」「今回来た人は元気になったと思う。来年もやりたい。次は沖縄や！」と、すでに当事者は来年を見ています。僕も楽しみです。（坂口）

分科会を担当しました

当事者とどんな内容にするか一緒に悩み続けました。
いろんな意見をもらい、話しをするだけでなく、参加者にも原稿を作って発表してもらうという参加型の分科会にすることが決まったのは本番１週間前。参加者が楽しんでいる様子を見て、悩んで決めたことが間違っていなかったと実感し、とても嬉しかったです。当事者の力強さを改めて感じたり、一緒に成功体験を得ることができた良い分科会でした。参加した人たちが、自信を持って自分史を語ってくれたらいいなと思います。（赤松）

自分の歴史を語ろう

当事者がする職員面接

当日、機材のトラブルで悔しい思いをしましたが、　井道さんは「来年成功させよう！」と言いました。必死で準備をしたことを思い出し、充実感を感じました。お互いの思っていることを伝え、感情を共有することはとても大事だと思いました。（池口）

「大変だったけど、自信を持ってできた。本番は他のみんながいたから頑張れた！職員の気持ちをもっとぼくに話してくれたら良かった。」（井道）

海外ゲストも職員面接を体験。スウェーデンのトミーは「職員の心を知ることが大事」、ＰＦ香港のハンは「お互いのことを理解することが重要」と、二人とも「人間性をみる」ことを大切にしていました。

「一緒に働く職員がどんな人なのか知るのは大事。いろんな人がいることを職員は分かってほしい。」（中山）

大会に参加して

～支援者のおもい～

みんなが同じところで繋がっている

ピープルファースト大会で、僕が見る事ができたのは、いくつもの熱い思いや考えがあって、その主張の仕方もカタチも違うけれども、みんなが同じところで繋がっている事でした。

まず自分を知ってもらいたい気持ちから始まって、そして周囲の人の事を知りたい気持ち、それぞれの思いが同じ方向を向いて動き出そうとし、そこに団結する力強さを感じた時に、心が動かされる瞬間がありました。

パンジーの当事者や支援者が、意欲的に、受身ではなく周りを率いて一緒に動こうとする頼もしい姿を見て嬉しくなりました。日頃から当たり前の事として自然になされているからこそできる事で、前向きで元気なパンジーがこれまで歩んで来た軌跡であり、参加した誰もが誇りを持ち、胸を張ってその場にいられた一日だったと思います。そして、この大会を成功させる事が更に全ての人の自信となって、世の中を引っぱる力になるのだと感じました。（北田徹）

日本と海外の違い

大会期間・その後の東北旅行まで、幸運にも海外ゲストと時間を共に過ごす事が多かった。その中で感じたのは、海外の当事者も社会の一員として生きていくために獲得すべきものを追及する思いを熱く秘めているという事だった。

私が、日本と海外とで大きく異なると感じたのは、当事者と支援者の距離感だった。大会や会議へ、支援者を通してではなく、当事者本人が直接参加している印象を受けた。当事者が、自分の思いを自分の言葉で伝えているのが感じられた。

それだけ支援が自然で表に出ないもので、当事者の意思を尊重したものだったと考える。そのせいか、当事者がより大きな自信を持っているように感じた。みんな輝いていてかっこよかった。そんな風に当事者が毎日を過ごせるためには、どんな支援をしているのかとても気になった。

今後は、大会で見たような当事者の表情が見られる、当事者が元気になるような関わり方をしていきたいと感じた。　（松永洋子）

理解を深めよう

大会を通じて今後に生かしたいことは、自分が理解し、どんなことを伝え、当事者が何を考えられるように支援するかということだ。きちんと準備をし、達成できた、自信ついたぞ！　と当事者が思えることが、大切だと学んだ。

パンジーでは、ピープルファーストの理念を日々の活動の中で学んでいる。失敗をして怒られたり、嫌になっても続けてきたのは、ピープルファーストの考えが、自分を好きになることやまわりの人と助けあうこと、一緒に社会にいる人が関わり合いながら共存していくことを大事にしているからだ。

日々の活動の中では、どんな支援が正しいのかわからなくて、自信がなくなることがある。けれども、この大会を通して、私が培ってきた経験と理念がぴたっと合って、理解することができた。さらに経験を積んで、ちゃんと自信をもって当事者と向き合う、それが私の目標だ。　（下川美希）

各場だより

めっちゃ上手いやん！

パンジー

パンジーには毎年、交流を兼ねて地域の小学生がパン作り体験に来ます。パン屋のメンバーは毎年心待ちにしています。私の出番だ！　と言わんばかりに小学生に、プリントを配ったり、パン屋の危険な個所の説明をしてくれるFさん。パン作りの手本を見せると、子どもたちから「すごーい。めっちゃ上手いやん」と声が上がります。何回もチャレンジする子どもたちに「もうちょっとや。うまくなってきたで」とほめている姿が頼もしいです。

パン作り体験の他に、パンジーの活動紹介や講演もします。ＩさんＴさんがスライドを見ながら説明をします。今年の目標を「講演を頑張ること」に決めたＴさんは、少し恥ずかしそうに、でも気持ちをしっかりと話しました。小学校時代に「友達と仲良くなりたかった。先生には、ちゃんと話を聞いてほしかった。友達と仲良くなれるように手伝ってほしかった」など、子ども達や先生に思いを伝えていました。

子どもたちから「すごく楽しかった。また来たい」という声が聞こえました。地域の子どもたちが気軽にパンを作りに来たり、買いに来てくれたりして交流がどんどん広がっていけば嬉しいです。（岩村）

年齢を重ねるということ

パンジーⅡ

「年齢を重ねた」ことが大きなことなのだと思う。六十歳を過ぎたＮさんは、長期的な治療が必要な病気になり、薬での治療と共に食事制限、禁煙、運動を医師からすすめられた。食事量を減らし、禁煙を決め、実行したが、一ヶ月を過ぎた頃から、再びタバコを吸うようになった。きっぱりやめたい、でも吸ってしまうもどかしさで今も葛藤が続いている。

そんな中で、Ｎさんは私に怒りの感情をぶつけるようになった。「食事の量や内容、治療スケジュールがはっきりしない、日々が充実していない」が理由だ。これまでの自由な生活スタイルを大きく見直す必要に迫られ、私たちはＮさんが十分に納得でき、病状を改善することができるか何度も話し合ったつもりだが、病状や心身の状態に合わせた過ごし方の希望を聞いてほしいという気持ちに答えられていなかったことに気づいた。

人は加齢に伴い心身や認知機能も低下し、自信や生きがいを見失いやすくなる。病気であっても必要な支援を受けて、その人がしたい暮らしができるように、楽しみをもって生きられるように、職員として何ができるか？　が求められるようになってきている。高齢者のサービスが柔軟に使えたら…とも考える。年齢を重ねた当事者の生活が充実できる仕組みが必要だと思っている。（三浦）

うれしい変化をみんなで感じよう！

パンジー

百食以上のお弁当を作る厨房の仕事はとてもハードです。お弁当の仕事はしたいけど、一日中はちょっとしんどい…という当事者の声を受けて、半日は厨房、後の半日は軽作業をするグループができました。今まで、休憩をしたいと思っても、言葉にすることが苦手なYさんは、仕事を休みがちでした。でも半日軽作業をすることでパンジーを休むことなく、仕事に集中することができるようになりました。一人ひとりが、自分の役割に責任を持って取り組めています。

さて、ピープルファースト大会にたくさんのメンバーが参加しました。初めて参加する当事者、実行委員・分科会で役割を持ち、準備の段階から、がんばっていた当事者等、様々でした。

Nさんは今までパンジーの当事者会議が苦手でした。ピープルファーストを経験することで、当事者会議に積極的に参加し、他の当事者の意見を聞き、自分の考えをしっかり伝えられる様になりました。

いろいろな場で当事者が活躍することで、日々の業務の中でも、相手の気持ちを考えたり、自分の伝えたいことを話したりする機会が増えました。私はそんな当事者の変化をうれしく感じます。このことを自分一人で感じるのではなく、職員間で共有しながら、支援していきたいと思います。（喜多）

一日ひとつの目標

ハート

今年度4月からハートに異動になりました。初めは、慣れない場所で作業の段取りや当事者の支援が上手く行かず、バタバタしていました。

私と同じく、Aさんも4月からハートの新しいメンバーになりました。Aさんは視覚障害があり、初めは自分の居場所がなかなか定まらず落ち着けなかったり、不安から大きな声になることもありました。支援者はAさんの事をもっと知るために、Aさんが心地良いことを探っていきました。そして体を一緒に動かすのが好きなことを発見。一緒に体を動かしていると表情が明るくなり、笑い声が出ることもあります。そんな中、徐々に空間にも慣れ、お気に入りのソファーで、落ち着いて過ごせる時間が増えてきました。今後もAさんにとって、一緒に過ごすことが心地良いと感じられるような支援をしていきます。

さて最近のハートでは、職員がモチベーションを持ち、仕事に取り組めるように、一日ひとつの小さな目標を決め夕方のミーティングで共有しています。その経験の積み重ねが職場の活気となり、よりよい支援につながっていくのではと考えます。（千田）

流行ってます パート2

きっず

前回に引き続き、きっずで流行っている遊びを紹介します。「かくれんぼ」です。かくれんぼをしたことがなかった子どもたちは、最初は、スタッフが誘っても「いやだ！」と拒否。親子教室でスタッフと保護者でやってみることにしました。親たちが楽しんでいるのを見て、子どもたちが、おもしろそうだと乗ってきました。

普段から、玩具は最小限にしているきっずの部屋。物が少ない分隠れる所がなさそうでしたが、意外に隠れる所はいくらでもあるものです。

床に敷いているマットを取り外し、立て掛けるだけでスペースが！　カーテンの裏にも！　そして数少ない遊具のトンネルの中にもすっぽりと身を隠すことができます。

子どもたちからはスタッフが考えもしなかった面白い発想が！　タオルを取り出し、その中へくるまる子がいました。子どもたちは鬼に見つけてもらうのが嬉しくて仕方のない様でついつい笑い声がもれてしまったり、様子をうかがって顔を出したりしています。鬼になっても「どーこだ？」と言いながら、部屋のあらゆる場所を探すのです。隠れる方も探す方もドキドキ！

保護者からは、家でもはまっているという声もあり、かくれんぼブームはしばらく続きそうな予感です。

（川淵）

家族とはできない経験を！

わくわく

3年ほど前から、ガイドヘルパーを利用するようになったAさん。ヘルパーを利用するまでは家族との外出が多く、自分で支払いをする機会がありませんでした。

Aさんが初めてヘルパーを利用、駅で切符を買うときに、自分で切符を買ってみたいけど買い方がよく分からない。ヘルパーから「百円玉2枚と五十円玉1枚を取って販売機に入れてみて」と言われ、その通りにお金を販売機に入れて切符を買うことが出来ました。ヘルパーとの外出のたびに自分で切符を買うようになり、自信がついてきました。

その後外出先でのあらゆる支払いの場面でヘルパーの支援を受けながら自分で支払うようになり、今ではヘルパーに帰宅するために最低限残しておく金額を聞いて、おみやげなどの買い物もするようになりました。家族からしてみると、おみやげを買いすぎるのも困るけど、それより自分で出来ることが増えた喜びを本人が実感していること、家族とでは出来ない経験が出来ていることが、嬉しいとのことです。

長くこの仕事をしていると、当たり前の支援と思っていることも、当事者からすれば初めて経験することや、感じる事も色々だったりします。その人にあった一つひとつの支援を丁寧にすることで、本人に伝わり、生活が変わる、そのためにも支援者は、何気ない支援も見直していくことが大切だと、家族からの話を聞いて改めて感じました。

（吉野）

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価　一〇〇円

書き損じハガキ、（未使用）切手を送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか？
当事者活動部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします。

パンジーでは、後援会員を募集しています。

賛助会員　１口　1ヵ月　　５００円　　本会員　　１口　1ヵ月　１,０００円
特別会員　１口　1ヵ月　３,０００円　　郵便振替番号 00950-1-300551　ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾊｳｽ「パンジー」

創思苑の新しいホームページを公開しています。

楽しい写真がたくさん。
そして、創思苑の活動がよくわかります！
ぜひ、一度いらしてください。

http://soshien.com/

今年も素敵なバレンタインチョコを！

お申込承り期限　1月27日

お申込・お問合わせ
クリエイティブハウスパンジー　TEL 072-963-8818　FAX 072-963-8825

編集人
東大阪市東鴻池町 2－4－8
ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾊｳｽ　TEL:072-963-8818
「パンジー」　FAX:072-963-8825

発行人
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町
２－２　東興ビル４階

編集後記
ピープルファースト大会 in 大阪では数年ぶりの再会、新しい出会い、海外の力強い仲間とのつながりを存分に楽しんでもらえたと思います。多くの方々のご協力に感謝します。ありがとうございました。（たき）

KSKR パンジーだより　No.73　第三種郵便物認可　通巻第 6237 号　2014 年 1 月 23 日発行